

花巻市環境基本計画(案)パブリックコメント結果(意見募集)

No	計画案の該当箇所	意見要旨	意見に対する市の考え方	備 考
1	資料編	<p>「環境・文化等に関連する主な活動団体」に、次の活動団体を追加したい。P63</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とうわ野鳥の会 東和町を中心に野鳥や野の花・樹木などの自然観察会を年間10回開催したり、写真展示、他団体の自然観察会の援助など啓発活動を行っている。 ・花巻野鳥観察会 野鳥や野生生物の観察を通し、花巻市の自然の豊かさを認識し、情報を発信することにより、自然環境の保全に貢献する。月1回の観察会への参加を広く呼びかけ、自然に関心を持った市民の拡大を図る。 ・エコネットとうわ 地球環境に優しい生活の工夫、実践。地球におけるスローフードの発掘、創作、育成、食育、等 生ゴミリサイクル、EM-坪農園、収穫祭の実施。 (理由等) 「花巻遠野流域連絡協議会」において、「花巻遠野流域環境活動ガイド」(案)を策定中であり、花巻市環境基本計画に掲載を検討してほしい。 	意見のとおり、追加します。	(メール)
2	第5章	<p>「グリーンコンシューマー」について、例えば、第5章の環境配慮指針の中に、「グリーンコンシューマーになろう。」とか記述してはどうか。 (理由等) ヨーロッパでは、「グリーンコンシューマー活動」が浸透しているが、日本ではまだ普及していない。「グリーンコンシューマー」とは「環境を考えて行動する消費者」のことで、この先環境配慮行動の推進の点で重要になると考える。計画のどこかに記述してほしい。</p>	意見のとおり、市民の環境配慮指針に追加します。(環境配慮指針は別途定める。)	(FAX)
4	地球温暖化を防止する。 第5章	<p>これから作成する屋外のエクステリア(ガードレール等の道路付帯設備、河川整備、ビル外装、屋上緑化資材等)に木材を利用してはいかがでしょうか。 公園を作るのも良いのですが、花巻市全体を公園のようにする。街を歩いても、郊外を車で走っていても、目に入る外構材が木製であれば心が癒され、イーハトーブと言われるのにふさわしい市に近づくと思うのです。 今は、木材の防腐加工技術も進み、20年以上保ち、廃材となる時は、一般廃棄物として扱われ、燃やしても害のないような防腐加工技術もあります。また、防腐加工材にエクステリア塗装をすれば、美的で、耐久性にすぐれたものになります。そして、エクステリア塗装したものは毎年検査して定期的なメンテナンスにより、オリジナルな外観を長期間保持することができると思うのです。</p>	木材の利用については、P6「森林等の温室効果ガス吸収対策」の二つ目・に「間伐材などを含めた地産木材の利用促進」を掲げており、また、環境配慮指針の中にP24(3)生き物やみどりへの環境配慮4つめ「建設業については、環境保護の視点を取り入れ、事前調査の実施や環境負荷の少ない工法に留意しよう。」としており、ご意見の内容をふまえており、良好な景観の保全にもつながると考えています。	(FAX)

No	計画案の該当箇所	意見要旨	意見に対する市の考え方	備考
6	<p>人の健康を保護し、生活環境を保全する。</p> <p>快適都市はなまきを創造する。</p>	<p>1) 空気汚染について 高木団地周辺に限らず、全国に向けて開かれている賢治記念館などの施設付近においてさえ、悪臭が漂い、外国の友人を案内した時は、ひどく恥ずかしい思いを何度かしました。「悪臭は少なくなった」と、ありますが、議会でも何度も取り上げられている懸案の様ですが、根本的な解決策を示す必要があると思います。また、焼却炉からと思われる煙が終始我が家周辺の空気を濁っており、喘息を患う私にとっては、辛いものですが、それには、言及していないと思われませんが、自宅や田畑でのゴミやワラの焼却時の煙等も相変わらずです。やはり、もっと具体的な策を示すべきでしょう。木材の利用にも触れていますが、ペレットの使用で生じる煙にも毎冬悩まされていますが、これは、どう考えたら良いのでしょうか。さらに、森林の保護を詠っていますが、旧市街地では、年々大切な樹木が、新設道路の為に切り倒されています。いまや桜台の名にふさわしくない風景となりました。新しく樹木を増やす前に、年輪を重ねた樹木を移転する方法も選択肢に入れ、美しい緑の街になるのではないのでしょうか。自然を守るとは、そうした視点で市財政を考えるのも大事かと、思います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 悪臭対策については、今後もこれまでの対策を継続することとしており、根本的解決に向けて継続して規制、指導することとしています。 ・ 焼却炉からの煙については、「大気環境の保全」の中で、「大気汚染防止法」や県条例に基づいて工場・事業所の大気汚染物質の排出規制や指導を引き続き実施することとしています。 ・ ごみの焼却については、「廃棄物等の循環的利用と適正な処分」の中で、ごみの自家焼却の禁止の周知徹底を図ることとしています。 ・ ペレットの使用による煙については、ペレットは環境に優しい燃料として普及が図られており、焼却による煙の影響については、今後の検討課題とします。 ・ 市街地の樹木の扱いについては、「良好な景観の保全と創造」の中で、緑にあふれた都市景観の形成を図ることとしており、市の環境配慮指針にも「緑地等の管理を適正に行い、美観、景観の保持に努める」こととしています。 	(FAX)
7	<p>人の健康を保護し、生活環境を保全する。</p>	<p>2) 水について 水の汚染に言及していますが、家庭や食堂などで使用する洗剤には、触れていませんが、合成洗剤による河川や海の汚染は見逃すこととは、出来ません。ダイオキシンに限らず多くの化学物質が、洗剤のみならず、食品、衣類、建材(アスベスト)や塗料等などあげれば切がありません。無論企業の排水も問題ですが、全て最終的には、形を変えて、川から海へと流出します。資料にある子供の詩にも在る様に、大人の市民として、害の無い商品を、心掛けて使用する様、環境保全として重要だと思えます。テレビやラジオのコマーシャルに左右されない、健康と環境を自ら守る知識を子供をも含め市民が身につける為の啓蒙を粘り強く企画して欲しいものです。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「水環境の保全」の中で、「家庭における生活雑排水対策として、汚染源となる調理くず等や廃食油の適正処理を推進する」としており、洗剤を含めて生活雑排水対策に取り組むこととしています。 意見のとおり、市民への啓蒙普及は、いろいろな手段で図ります。 	
8	<p>快適都市はなまきを創造する。生物多様性を保全する。</p>	<p>3) 風景について 草刈、森林保護、ゴミ拾い、等あらゆる事が、基本的に、ボランティアのようですが、それぞれ、時間と労力を提供する訳ですから、報酬があつて当然だと思います。ちなみに、多くの市民は、その点で不満を持っています。また一言も触れていませんが、花巻は、米作と雑穀の地の筈、宮沢賢治も稲作の改善に尽力したのではなかったのではないのでしょうか。それなのに、年々荒果てた水田や草ぼうぼうの畑が増え続けています。農民だけではなく、観光客にとっても田畑に生きる力強い息吹を今の風景には感じ取れないと思います。地に根を張って農業を守ってこそ本物のイーハトーブになると信じます。更に、水田は保水作用もあり、ひいては、花巻市や日本のみならず、地球環境も保全し、異常気象にも影響した日本の四季が戻って来るかもしれません。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「良好な景観の保全と創造」の中で、「市民との協働による豊かな田園景観の保全」「宮沢賢治の描いた自然を尊重する景観整備」を掲げています。また、「里地里山の保全と持続可能な利用」の中で、「休耕田などの遊休農地の環境改善の推進」を掲げています。 	
9	<p>地球温暖化を防止する。</p>	<p>4) 省エネについて 細々と市民がやる対策が述べてありますが、それは、あくまでも個人個人の考え方、あれこれ指図されなくとも、不況の下、各家庭、個人で精一杯努力しています。電気、水道、ガス、廃棄、など市内の工業団地の誘致企業に数値目標を与え、その達成を迫るべきです。日本のCO2排出量の35パーセントが企業からのものだからです。花巻もその責任を逃れることは出来ません。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「エネルギーの適正利用の推進」の中で、「事業者の環境配慮を推進のため、事業者の環境マネジメントシステムの認証取得」を掲げており、この認証取得が取り組みの数値目標設定にもつながることになります。また、今後策定する「地球温暖化対策地域推進計画」策定の中で検討します。 	

No	計画案の 該当箇所	意見要旨	意見に対する市の考え方	備 考
10		5) 医療、教育、などについて 環境という言葉は、広い意味を持っています。医療環境は、当市においても、劣悪です。教育も、正しい歴史観に基づき、人間としての基本的学力と思考力とともに、人類が延々と伝えてきた判断力と知恵を、親、地域、学校で責任を持って国家の介入を許さず市民の力で子供たちを見守り、育むことが、教育環境の保全の在りかただと思います。その他、各種委員会も国や県の言うがままではなく、市民道徳に依拠し、イーハトーブに相応しい人間教育の為の項目を、あえて設け、話し合いを深め、具体化する事を切に望みます。	・環境基本計画において、対象とする環境は、自然環境、生活環境、快適環境、地球環境としています。 医療、教育については、「花巻市総合計画」をふまえたそれぞれの個別計画や施策に委ねる内容であり、ご意見として承ります。	
11	循環型 社会を 構築す る。	6) ゴミ問題について 市民の努力だけでは減少には限界がある。根本から、大手企業の発泡スチロール、ラップ、その他多くの過剰包用品が否応なしに選ばれるを得ないのが現状なので、行政に(国)意見を上げて欲しい。行政からの強い指導が必要と思われる。	・ごみ問題については、環境基本計画の中で「廃棄物等の循環的利用と適正な処分」において、施策を掲げている。また、既に策定している「一般廃棄物処理基本計画」においても各種施策を掲げております。 今後、さらに関係機関(国、県、周辺市町村等)との連携による指導が重要と考えています。	
12		7) ゴミの分別について 視覚障害者には、物の識別が困難で、マークなど全くわからない。またゴミ百科事典があるそうだが、私たちに読める形で届いていない。是非必要です。	・視覚障害のある方へのごみの分別に係る啓発については、今後の取組み課題とし、理解しやすい啓発を図ります。 なお、「ごみカレンダー」や「ごみの分別大辞典」については、社会福祉協議会において、点字版のものを作成しており、その周知を図ります。	
13	地球温 暖化を 防止す る。	その他 8) 自転車利用の促進 北欧に自転車道が整備され、自転車利用が進んでいるように、自転車利用を促進して欲しい。	・地球温暖化防止のため、現状の自動車に頼るライフスタイルの転換を掲げており、この中で自転車の利用促進も一つ的手段として考えられます。今後の「地球温暖化対策地域推進計画」等の策定の中で、検討します。	
14		9) エコカーについて 視覚障害者にとって、音が出ない車は、車が迫っていることに気が付かず事故がある。音が出る工夫をしてほしい。	・交通安全の対策の中で、警察等関係機関に当該意見があったことを伝えます。	
15		10) 公表について 視覚障害者として、公表の仕方について、音声読み上げソフトに対応できるようテキストファイルでの公表に配慮願いたい。	・ご意見をふまえ、(当該計画だけでなく、)ホームページへの掲載の仕方について、関係課と協議して対処します。	

No	計画案の 該当箇所	意見要旨	意見に対する市の考え方	備 考
16	生物多 様性を 保全す る。	山の伐採について 昔は山の木を切り出すのに、冬馬を使ったり、ワイヤーを張り運び出していました。最近では、経費がかかるという理由で重機で道を開き、その道路が雨などにより水が流れ出し、土砂も流れそれが最後に海の恵みまでを駄目にし海産物に影響を与えています。被害額も相当のものと思われま。そこで長期の計画を立て、海での被害額より安く補助金を出し、昔ながらの方法で山を管理したらどうでしょうか。たとえば馬を飼っている人に環境補助金を出すと、公害もなくし自然の植物で1馬力？出せます。	・「里地里山の保全と持続可能な利用」の中で、「管理の放置された山林の荒廃について、環境改善の推進」、「森林の持つ環境保全機能の向上」を掲げています。 今後、山林荒廃対策は、広域的視点の取組みが必要であり、一つの参考意見として受け止めます。	(郵送)
17		道路造りについて 岩手の主要道路の効率化（スピードアップ）をはかるため交差点や見通しのきく農免道路の50km規制をスピード化時代に合うように改善してほしいものです。 海外に行くと見ると、交通システムがかなり進んでいます。イギリス、オーストラリア、シンガポールなどでは交差点で赤信号で止まることのないようにロータリーシステムや、信号の手前に左折専用の道路が確保されています。よってヨーロッパではディーゼルエンジンが80%と普及しています。スタート時の加速排煙が出ないからです。イギリスでは、普通の道路が岩手に似ていて市内を除き100km規制です。たとえコンピューターなどにより情報化が進んでも物を移動させなければ世の中が動きません。1日100台のトラックが運ぶ荷物をスピード化により80台で済むかもしれません。又営業マンや仕事で動く人は10軒歩くところ12軒歩けるかもしれません。日本の低迷している経済成長も2パーセントくらい上げる事も出来るかもしれません。中国、インド、ドバイの急成長を横目でただ見てるのは残念です。何とか考え改善しましょう。時間が有ればもっと提案したいのですが多忙の為とあえず別の視点からの提案です。今後このような企画をどんどん続けて欲しいものです。	・スピードアップのための道路整備と速度規制については、経済成長の視点からの意見ですが、当面、CO2削減のためにエコドライブの啓発等、運転マナーの向上が大切と考えております。また、速度規制については、交通安全という視点からも検証が必要と考えています。	